

## 四季咲きの花 バラ

花のある暮らしは、花を身近に育てて実現できることです。咲いた花を見つけ

た時の感動、うっとりする芳香、やわらぐ気分、花をきっかけとした家族や友達との集い・・・花壇、鉢、ベランダで花を育てると、季節の変化を実感できます。

四季咲きの花は、その後表情を変えて咲き続けます。思い出の花々と寄せ植えにしたり、洋風にも和風にもアレンジできたり、アクセサリにしたりと、いろいろ楽しめます。大井戸公園、上坂部西公園、農業公園などでは、アメリカ・ドイツ・イギリス・フランスなどのバラが華やかに咲いています。街かどでも、美しく彩る花々を見かけます。

## 子ども歳時記

日本には季節にちなんで行われる行事や風習が数多くあります。それぞれに理由や目的があり、人々の願いが込められています。

## 十五夜

秋は空気も澄み、虫の鳴き声も聴こえ、夜には美しい月を眺めることができます。月は、愛や平和などのイメージを持っており、世界の国旗にも多く使われ、人々に愛されています。

仲秋の名月が9月中旬から下旬の午後6時頃に見ることができます。十五夜には、月見団子や秋の七草・里芋・季節の果物など、その年の初物をお供えし、秋の収穫がよく実るように願いを込めて、縁側や窓辺などで家族や友達と楽しんでみましょう。

住環境コーディネーター  
引地 春美

# 子育て親育ちエッセンス

子育てサークル『やんちゃんこ』  
代表 濱田 英世

## ★ 子どもの関わり方 “愛情を伝える”ということ

子どもへの「愛情」がしっかり伝わっていれば、子どもとの関わり方も必ず見えてくるものです。前号の最後に書いた文章です。子どもの言いなりになることや、欲しいという物をすぐに買い与えることでしか「愛情」を示せないのは悲しいことです。いつもの何気ない時間の中で、笑い、話し、認め、叱ることが、本当の「愛情」の形だと私は思います。そして大切なのはその「愛情」を子どもに伝えるということです。

## ★ 自分を大切にできる心を育む プラスの言葉がけを

日頃、子どもたちに対して、どのような言葉がけをしているか振り返ってみてください。悪いことの方がよく目について、叱ってばかりということはないでしょうか？悪い時に限ってではなく、普段の何気ない事柄を捉えて「すごいね」「よくがんばったね」「助かるわ。ありがとう」という気持ちを、きちんと声に出して伝えていきましょう。これが、頭で分かっているもなかなか口に出して言えていないものです。ということは子どもにもきちんと伝わっていないことになっていきます。プラスの言葉がけが子どもの自尊感情を育てていくことにつながっていきます。自分のことが好きになれるように、そして自分が大切に思ってもらえているのだと感じられるように、大人からしっかり伝えていきたいものです。

## ★ 子どもの成長や状況に応じて 心に届くように愛情を伝えて

その伝え方や関わり方は、いろいろな場面によって変わってきます。成長段階・年齢によっても変わるでしょうし、また男女の違

いや父親から言われるのか、母親から言われるのかということでも雰囲気やニュアンスが変わってくることでしょう。その時折の状況によって上手く子どもの心に届くようにしたいものです。

成長段階でみると、乳児期はなににより笑顔とスキンシップで十分。ここにいるよと伝えてあげることで、安心感に包まれた中で赤ちゃんは育っていきます。ところが最近、少し悲しい光景に出会うことがあります。抱かれている赤ちゃんは一生懸命親の顔を見つめているのに、抱いている親の視線は手のひらの中の携帯、スマホ。これでは愛情は伝わりませんよね。眼を見て話し合う・感じ合うということは最も大切なことです。子どもがいくら大きくなって、大人が手本となって気をつけなければいけないことですし、また子どもにも正しいマナーやルールを責任持って教えていくことが親の役目だと思います。

幼児期からだんだん保育所、幼稚園とお友だちと関わる世界ができてくると、しつけというものがより大切になってきます。我慢することやルールがあることをきちんと教えていきましょう。また小学生・中学生になると子どもたち自身、他人と自分というものを意識するようになってきます。その時にこそ具体的に「できたね」「がんばったね」「素晴らしい」という思いをたくさん伝えて「認められている」実感を伝えてあげてください。

男の子への言葉がけと女の子への言葉がけも変わってくるかもしれませんが、反抗期には会話が少なくなるかもしれません。その時でも場面に応じて、短く・簡単に・内容をわかりやすく伝えるというコツを使って、愛情メッセージは伝え続けてください。そうして、ひとりひとり「自分のことが好き」だと思える子どもの育ちを見守っていきましょう。